

ヨーロッパ経済論Ⅰ

科目ナンバリング ECP-327
選択必修 2単位

田中 延幸

1. 授業の概要(ねらい)

現在、ヨーロッパ経済を構成する諸国の大半はヨーロッパ連合(EU)に加盟し、EU経済の理念・政策・制度から大きな影響を受けている。そのため、ヨーロッパ経済はEU経済とほとんど重なっている。とはいえ、EUが一つの国家を形成していないことから、EU加盟国の経済の自立性・独自性も高い。以上のことを踏まえ、この授業では、ドイツ経済やフランス経済をはじめとする主要なEU加盟国の経済の動向にも留意しながら、EU経済の成立と展開について説明する。したがって、この授業を通じて、EU経済を軸にヨーロッパ経済の歴史と現状について学ぶ。

2. 授業の到達目標

EU経済の歴史と現状について理解し、説明することができる。

3. 成績評価の方法および基準

平常点: 40%(授業中の質問に対する回答など、授業への意欲)
テスト: 60%

4. 教科書・参考文献

教科書

教科書は使用しない(プリントを配布する)。

参考文献

田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治 『現代ヨーロッパ経済』 有斐閣アルマ

5. 準備学修の内容

授業の冒頭に、前の回の授業の内容について質問するので、質問に答えることができるよう、前の回の授業の内容をしっかり復習しておくこと。

6. その他履修上の注意事項

ヨーロッパ経済論Ⅱも履修することが望ましい。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション
- 【第2回】 EU経済と国民経済
- 【第3回】 ヨーロッパ経済統合思想の起源
- 【第4回】 第一次世界大戦とヨーロッパ意識
- 【第5回】 ヨーロッパ経済統合運動の展開
- 【第6回】 1930年代大不況とヨーロッパ統合構想
- 【第7回】 第二次世界大戦とヨーロッパ統合構想
- 【第8回】 マーシャル・プランとヨーロッパ統合
- 【第9回】 戦後改革とヨーロッパ統合
- 【第10回】 シューマン・プランとECSC
- 【第11回】 ECSCの制度的特徴
- 【第12回】 ECSCからEECへ
- 【第13回】 EECの制度的特徴
- 【第14回】 ヨーロッパ経済の黄金時代とヨーロッパ統合
- 【第15回】 まとめとテスト